



日立エレベータの代表的製品 Distinctive Examples of Hitachi Elevators

最近国内の経済事情がやゝ安定に向うと共に、都會地に於ける建築物の復興も愈々目覺しくなつてきた。

一方日立エレベータの眞價も漸く一般に認められる様になつたため、百貨店、事務所、銀行、工場等より客用並びに荷物用エレベータを續々と受註するに至つた。

その種類は直流ギアレス及び直流ギヤド高速エレベータ、交流二速度及び交流単速度エレベータ、或は料理書



第1圖 白木屋納客用直流ギヤードエレベータ
Fig. 1 D.C. Geared Traction Passenger Elevator Installed in Shirokiya.

類等の運搬に用いられるダムウェータに至る迄多種多様である。

ここにこれ等の各種エレベータの中で最近の代表的製品二種を紹介する。

[I] 東京、日本橋、白木屋納め直流ギヤドエレベータ (1 臺)

昭和 25 年春納入した客用高級エレベータで5月中旬より好成績で運轉している。

(1) 仕様

定格荷重	1,000*kg (12 人乗)
定格速度	90m/min
制御方式	日立直流可變電壓カースイッチ制御、自動着床式
ケージ大さ(外法)	間口 1,780×奥行 1,700×高さ 1,970 mm
ケージドア	セイフティゲート
ハッチドア	二速度三枚パネルドア 日立電動扉開閉装置付
停止階	B, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, R の 9 個所
インジケータ	メカニカルダイアル型 (上下灯満員急行灯付き)
アナランジェータ	ダブルフラッシュライト型オートリセット
行程	32,573 mm
全高	39,818 mm
捲揚用電動機	直流 20.1P 800 r.p.m.
電動發電機	誘導電動機 25 kW 直流發電機 20 kW
	勵磁機 4 kW
ローピング	1:1

(2) 特長

(a) 相當高速度ではあるが多年研究の日立可變電壓制御式により起動より停止に至る迄極めて圓滑に運轉が行われ、且つ精密着床が出来て乗心地は申し分ない。

(b) ケージの天井にはドーム型を用い、その両側にチューブランプを配置して間接照明を採用したため、極めて軟い感じを出している。

(c) ケージドアにはセーフティゲートを用いたが、これは外觀優美であり、且つドア開閉時の騒音防止についても特別に考慮を拂つてある。

(d) インヂケータは新らしい試みとしてニッケルメタリコン仕上げとし、ブロンズ磨き出しの階床文字との調和により優雅な趣きを與えている。

(e) 電動發電機の支持に充分注意し、建築物に傳達される振動騒音を吸収することが出来た。

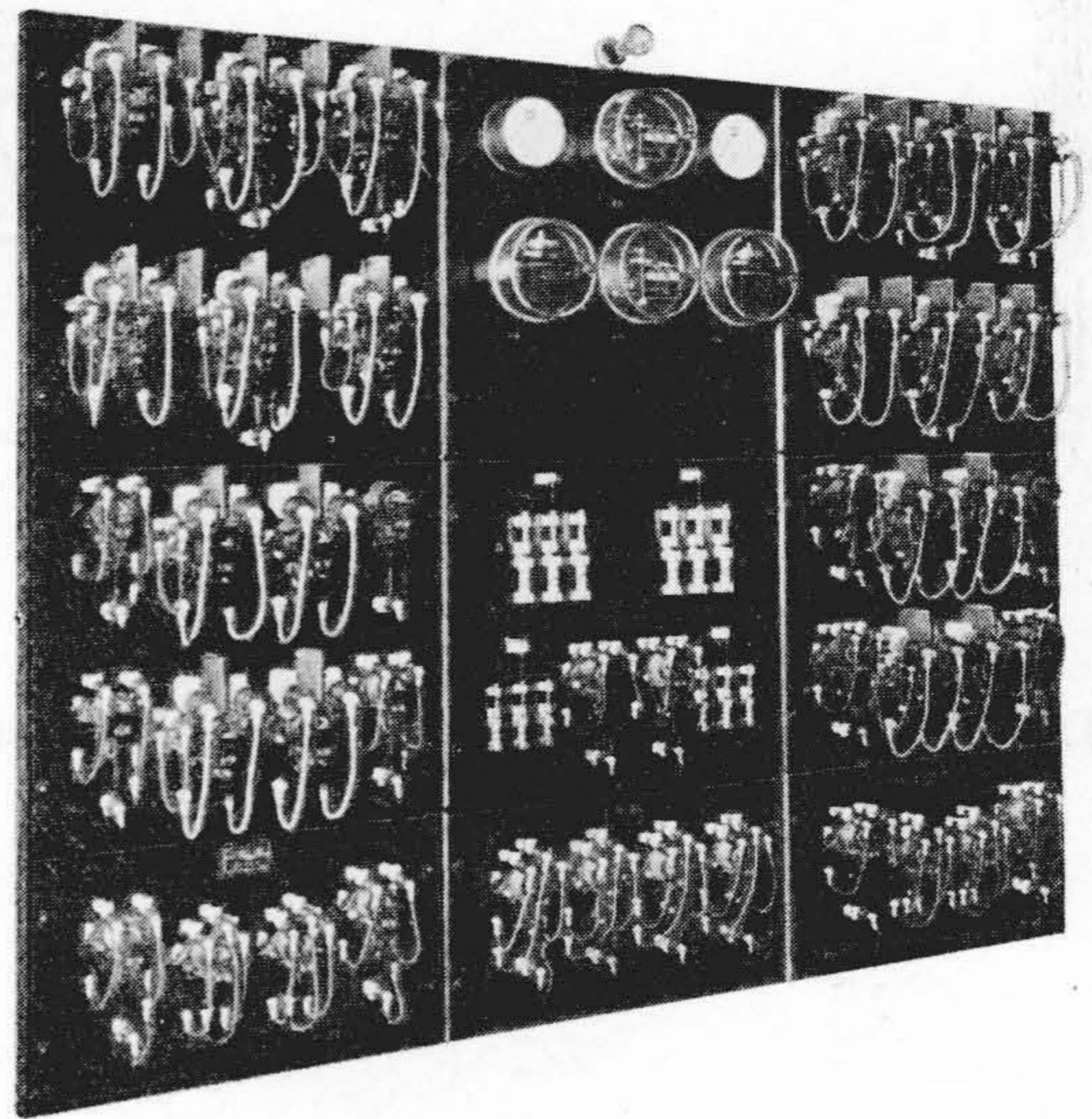
(f) 運轉能率を向上させるために電動扉開閉装置を採用しているが、これも多年研究の結果動作圓滑にして且つ殆んど騒音を發生しない優秀なものである。

[II] 東京、日比谷、パークビルディング納め交流二速度エレベータ (2 臺並列)

これは昭和 25 年末迄に運轉開始を目指して製作されたものであり矢張り客用高級エレベータで目下鋭意据付工事中である。

(1) 仕様

定格荷重	550 kg (7 人乗)
定格速度	60 m/min
制御方式	日立交流二速度カースイッチ制御自動着床式
ケージ大きさ(外法)	間口 1,300×奥行 1,400×高さ 2,120 mm
ケージドア	セーフティゲート
ハッチドア	二速度三枚パネルドア 日立電動扉開閉装置付き
停止階	B, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 の 9 個所
インヂケータ	メカニカルホリゾンタルフラッシュライト型 (上下灯付き)



第2圖 パークビルディング納客用交流二速度エレベータ用受電盤及び制御盤 (二臺並列)

Fig. 2 Receiving and Controlling Panels for A.C. Two Speed Passenger Elevators Installed in Park Building.

アナンシェータ	ダブルフラッシュライト型オートリセット式
行程	28,634 mm
全高	35,834 mm
捲揚用電動機	7.5 kW 6/24 極捲線型誘導電動機
ローピング	1:1

(2) 特長

(a) 二速度制御はケージの減速時に捲揚用電動機の極数を變換することによつて高速回轉數より低速回轉數に落すことが出来るから正確に着床が出来る。且つ日立製作所不斷の研究改良により、起動加減速、停止共極めて圓滑に運轉が出来、従つて乗客に不快つ感を與えない。第2圖は受電盤及び制御盤を示す。

(b) ケージ、ケージドア、電動扉開閉装置等の特長については前述の白木屋の場合を参照せられたい。

(c) 建物が華美なるため、これにマッチさせるべくハッチドア、インヂケータ、ケージ内器具(カースイッチアナンシェータ類)その他全般に互

り特に意匠の點にあらゆる努力を拂い入念に製作した。

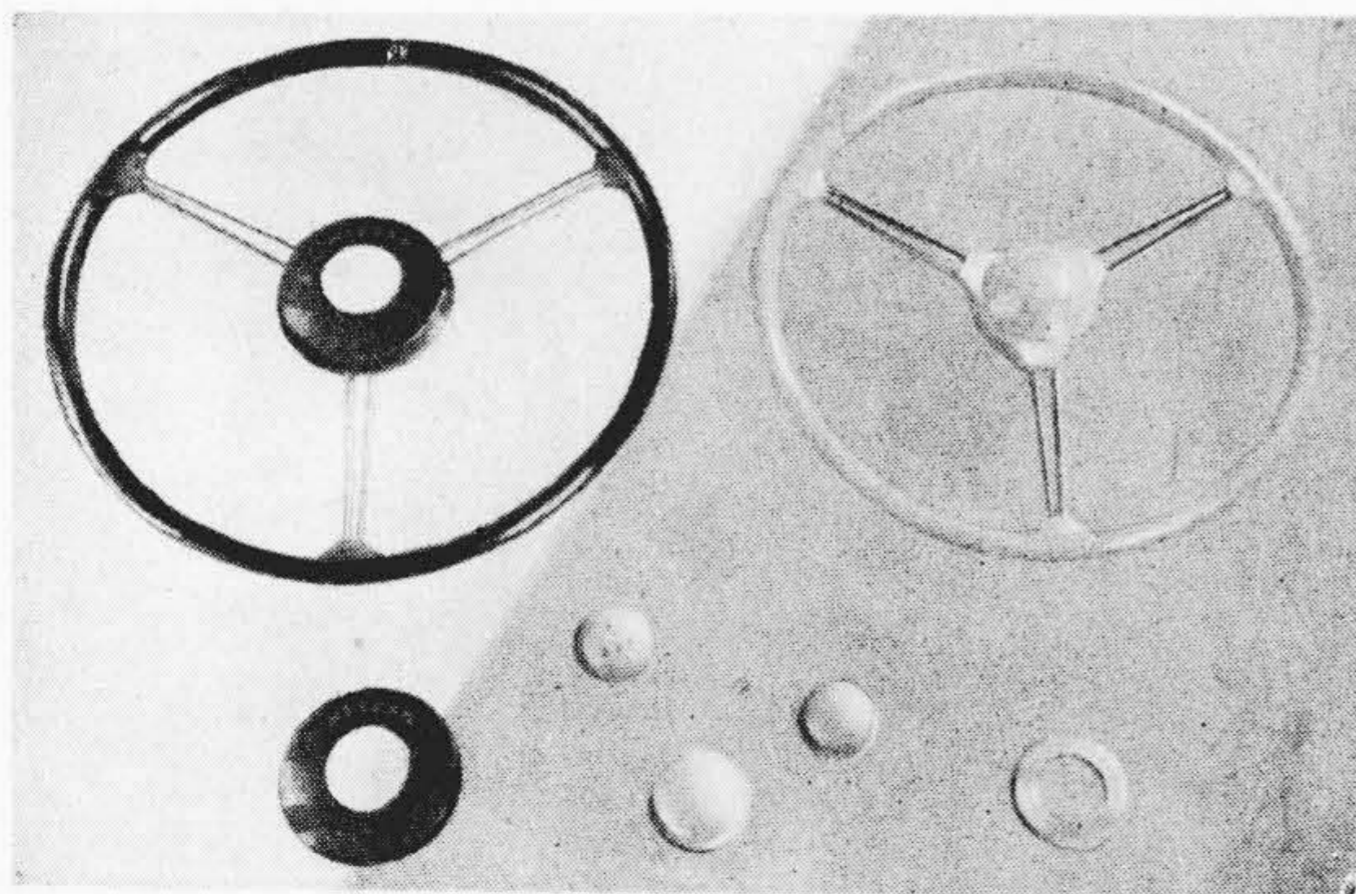
スタンドライト型造品 Standlite Molded Products

スタンドライト型造品は電気絶縁材料として多くの日立製作所製品に用いられているが、年々改善される斬新な技術に伴い、その材質、形状、大きさは日進月歩の状態であつて、国内フェノール系型造品の部類では主要な地位を占めている。又スタンドライトの特長である物理的な特性は、機械用部分品としての用途を逐次開拓しており、ギヤ、ピニオン、軸受用メタル、或は支柱等として、各種機構の主要な部品としての役割を果している。

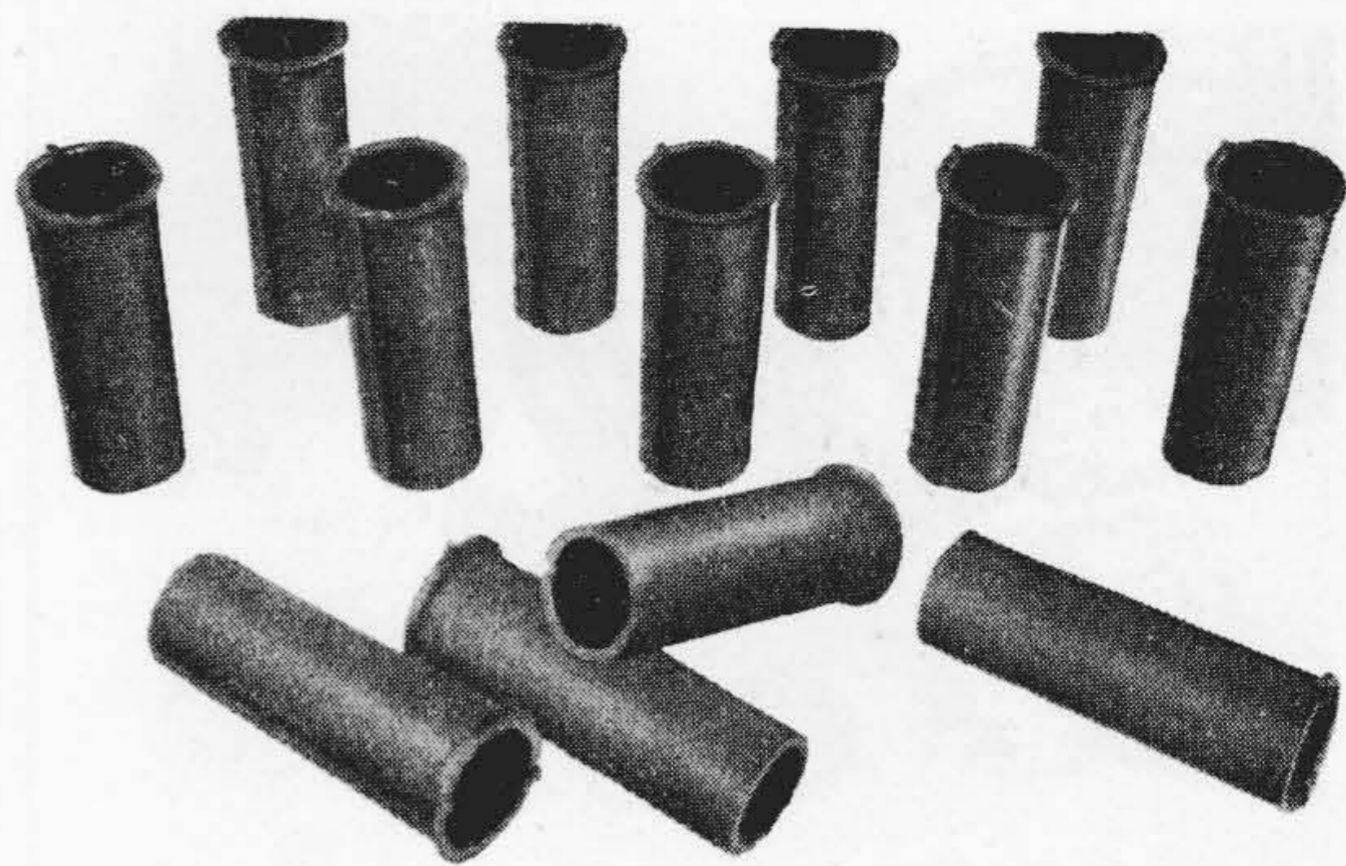
次に述べる型造品は最近に於ける特記すべき製品であり、市場でも高く評価されているので、ここに紹介する次第である。

1. ステアリングハンドル

従來のステアリングハンドルは材質の點外觀上から不具合の箇所があつたので、拾數年の經驗技術を基として型、金具及び、材質に改善を加えて、ここに第1圖の如き新50年型ハンドルが製作された。ホーン、ボタンは特にタガライト成型材料を用いている。同ハンドルは日産重工業株式會社に納入されているが、機械的強度、耐久性、外觀等に優れた特長をもつており、民需用としてのみでなく特需用としても採用され月産1,500個を生産している。



第1圖 1950年型・ニッサン・ステアリング・ハンドル
Fig. 1 Type 1950, Nissan Steering Wheel.



第2圖 X線遮蔽筒線
Fig. 2 Protector for X Ray.

2. X線遮蔽筒

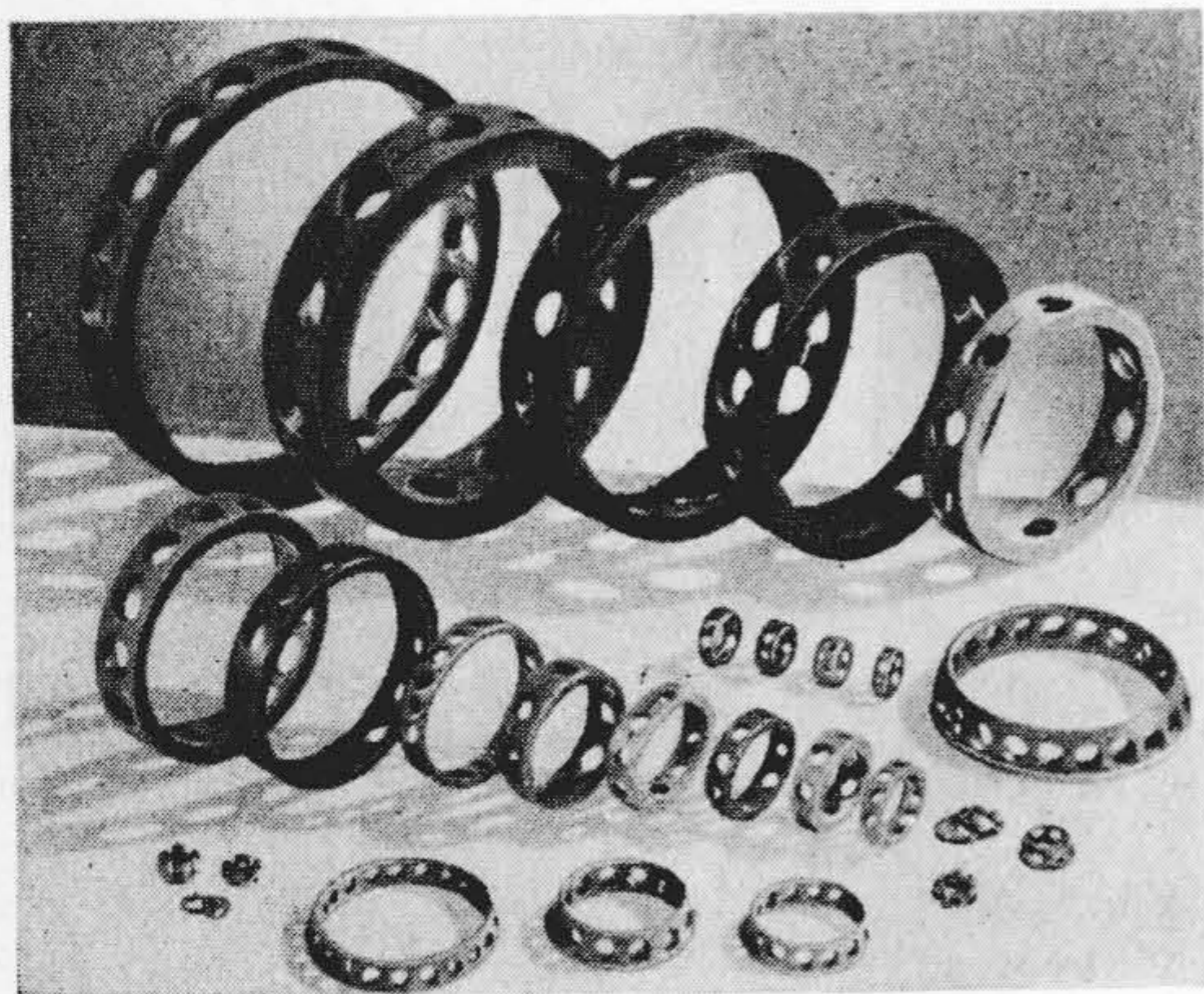
高度の絶縁物であると同時にX線の遮蔽効果を持つ絶縁物として、新に型造されたレントゲン用X線遮蔽筒に特異の絶縁物として注目をひいている。

島津製作所に納入されているが、實用の結果X線の遮蔽効果は充分發揮されて好評を博しているので、今後も同種のものゝ發展が期待されている。(第2圖参照)

ボールベアリング球保持器用ニチリット Ball Retainer of Ball Bearing Made by Nichiritt

高速回転用ボールベアリングの事故原因の90%以上は球保持器不良によるといわれていて各種型式のものが採用され、材質的にも砲金、チタルミン其他各種金属が用いられている。合成樹脂製球保持器は材質の特長として耐摩耗性、低摩擦係數、及び焼付現象を呈さないという種々の利點により歐米では早くから高速ボールベアリング用に實用され、我國でも戦前、戦時中多量に採用されてニチリット製球保持器の聲價を高めてきた。戦後はボールベアリング工業の沈滞と共に殆ど使用されなかつたが今年度には下記(次頁参照)會社へ多數納入し好評を博した。

今後更に精密機械、高速機械の發展と共に益々需用増加が豫想され、その品質改善に尙一層努力を傾注している。第3圖はニチリット製球保持器を示す。



第3圖 ポールベアリング球保持器用二千リット
Fig. 3 Ball Retainer Made by Nichiritt

納入先

東洋ベアリング株式会社 800 個
不二越鋼材株式会社 7,600 個



日立製作所特約店

營業 電氣機械一般
種目 電氣工事一般

株式會社 八洲電機商會

東京都千代田區神田須田町一ノ二八
(都電須田町停留所隣・地下鐵ストア前)
電話神田 (25) 二三八〇・二三八一
二一九四・二一九五・二三六〇

— 編集後記 —

○四月馬鹿 (April Fool) に明けた四月は、全国的に繰り上げられた選挙戦に終始した。都道府長官知事市長から都市會縣會議員、區町村會議員にいたる選良が決められ、すべての國民が總動員されたが、果して理想的選挙であつたか、これが選挙馬鹿にならねば幸いである。

○本號も選挙戦に煩われた譯ではないが、製版印刷など外部的影響もあつて発行日より遅れましたが引續き特集號編集に着手していますから、御期待下さい。

○『ストロージャスイッチの改良について』戸塚工場副工場長渡邊孝正氏から 35 枚の長論文を頂いた。弱電關係の權威者として、定評ある斯界の第一人者として方々の座談會などに引つぱり出され卓見を披歴して居られるが、今後もどしどし研究を發表して頂く筈である。

○その他各工場の精鋭をすくつての論文を揃え、益々内容は充實したが、表紙其他體裁にも今後十二分ニューロックを採り入れ、文字通り工學技術研究誌としての新面目をととのえてゆく方針である。

○本號より『日立便り』を復活した。各工場別のホットニュース、代表的製品の紹介並に研究の成果をエキシク的に採り入れ、讀者に新鮮味を提供する欄、何卒本文同様御愛讀を乞う次第です。 (寺澤生)

第 33 卷 日立評論 第 4 號

禁無轉 昭和 26 年 4 月 20 日 印刷
斷載 昭和 26 年 4 月 25 日 發行

誌	冊 數	定 價	送 料
代	1 カ月分	¥ 30	¥ 6
	6 カ月分	¥ 200	不 要
	1 カ年分	¥ 400	不 要

編集兼發行人 長谷川 俊 雄
印刷 人 花 崎 實
印刷 所 大東印刷株式會社

發行所 日立評論社

東京都品川區大井坂下町 2717
振替口座東京 71824 番
電話大森(06) { 111-10番
3131-10番
會員番號 A 208062 番

廣告取扱店 東京都港區芝南佐久間町 1 の 26 廣 和 堂